



家畜保健衛生所だより

R7. 5.14

アルボウイルス感染症に注意！

アルボウイルス感染症は、ヌカカ、カ、ダニなどの吸血昆虫によって媒介されるウイルス性疾病の総称で、これらの吸血昆虫の活動が活発になる夏から秋にかけて感染が拡大する傾向があります。妊娠中の牛がウイルスに感染すると、流死産、仔牛の体形異常・虚弱・盲目などの異常産を引き起こす恐れがあります。

アルボウイルスは毎シーズン、東アジア・東南アジアからウイルスを保有した媒介昆虫が気流に乗って国内に侵入していると考えられています。

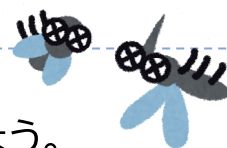
2024年度の調査では愛媛県を含む中四国・九州の各県で広く確認されています。本県では2022年から3年連続でウイルスの侵入が確認されています。

今年もこれから感染リスクが高まることが懸念されます。

吸血昆虫対策や異常産ワクチン接種による予防をいっそう徹底しましょう。

△吸血昆虫対策について△

- 殺虫ネットを設置し、畜舎への侵入を防ぐ。
- 異なる種類の殺虫剤をローテーションで散布、ハエ取り紙の設置
- 幼虫用の殺虫剤(IGR系)を堆肥舎、畜舎周辺の発生源となり得る場所（牛舎壁の隅や溝、ウォーターカップの下など）に散布
- 牛舎周辺の草刈り等を実施



《代表的なアルボウイルス感染症》

	アカバネ病	チュウザン病	アイノウイルス感染症
症状	流死産、体形異常、水無脳症 生後感染例は起立不能や麻痺などの神経症状	先天異常子牛 (神経症状・運動障害)	流死産、体形異常、 水無脳症
近年の抗体陽転事例 (2021～)	・沖縄県(2021) ・沖縄県、熊本県、北海道 (2022) ・高知県、岡山県(2024)	・沖縄県(2021) ・愛媛県、岡山県、高知県、長崎県、 熊本県、沖縄県(2022) ・愛媛県、高知県、佐賀県、熊本県、 宮崎県、沖縄県(2023) ・島根県、香川県、高知県、 <u>愛媛県</u> 、 熊本県、沖縄県、福岡県(2024) ※ 2022年以降の抗体陽転は、近縁の ディアギュラウイルスの感染の可能性 が高い(異常産の発生あり)	・山口県(2022) ・沖縄県、福岡県、佐賀県、 長崎県、熊本県、大分県、 宮崎県、鹿児島県(2024)

分娩に異常が見られた場合や子牛の様子に異常がある場合には速やかに家畜保健衛生所までご連絡ください。

中予家畜保健衛生所

TEL 089-990-1333

携帯 090-6282-6129(休日)

